

現場訪問 ●城北信用金庫

二輪車と三輪車の特性を理解して 安全運転技術を身につけてもらう

東京都内を中心とした地域金融機関である城北信用金庫(本部・東京都北区)の新入職員を対象にした安全運転研修が5月15日、18日に交通教育センターレインボー埼玉で開催された。2日間で新入職員38名が研修を受講した。

この安全運転研修を実施している背景を城北信用金庫採用研修部長の原島章さんは次のように話す。

「私たちは営業車両として、ホンダの『スーパーカブ』(二輪車)や『ジャイロキヤノビー』(三輪車)を活用しています。最近、運転免許は持っているにもかかわらず、二輪車の運転経験がないという新入職員が少なくありません。そうした職員の不安を取り除き、円滑に業務が進められるとともに金庫としての安全配慮義務に基づき、実技を中心とした研修を平成20年から始めました。」



二輪車と三輪車、それぞれの運行前点検のポイントと方法をインストラクターが説明



一本橋に取り組み新入職員

研修では午前中、運行前点検のポイント、正しい運転姿勢、安全な乗降車の方法をインストラクターが説明。午後からはトレーニングコースに出て、実技が始まった。受講者は慣熟走行を兼ねて、二輪車と三輪車を交互に運転しながら、発進・停止の練習を繰り返す。この後、一本橋や波状路、パイロンスラロームなど課題で、二輪車や三輪車のバランスのとおり方や車両感覚を身につける。

「三輪車では市街地の路地で車体を傾けた時に、ルーフを扉などに接触させてしまうことがあります。パイロンスラロームでは車体上部の車両感覚も意識していただき」とインストラクターがアドバイスした。

最後は、反応制動。直線路を40km/hで走行し、前方にある信号機が点灯したら、ブレーキをかけて停止する。その後、受講者に信号機が点灯した位置と、自分が点灯を確認した位置の差(空走距離)を確認してもらう。危険を認知してからブレーキを操作するまでの反応時間と空走距離を踏まえて、車間距離(車間時間2秒以上)をとるようにインストラクターは受講者に伝えた。

研修を視察した原島さんは、「職員の安全意識を向上させる上で、この研修は役立つという理念を持つ地域金融機関として、私たち職員が交通事故の加害者、そして被害者とならないための取り組みは、たいへん重要だと考えています」と力強く語った。

研修を視察した原島さんは、「職員の安全意識を向上させる上で、この研修は役立つという理念を持つ地域金融機関として、私たち職員が交通事故の加害者、そして被害者とならないための取り組みは、たいへん重要だと考えています」と力強く語った。



前方にある信号機の点灯を確認したらブレーキをかけて停止する反応制動



パイロンスラローム。三輪車の場合は、パイロンの先のボールに接触しないように通過する

TOPICS



ダミー人形を使った飛び出し事故の再現

7月21日、福島県南会津町で(株)飯野製作所田島工場が主催

2 事故の怖さを伝え、交通安全の大切さを学んでもらう

●南会津地区親子交通安全教室

する「第1回南会津地区親子交通安全教室」が開催された(共催:本田関連企業災害防止協議会栃木支部)。この親子交通安全教室は、子どもには事故の危険や怖さ、保護者には自らが事故を防ぐ知識と、子どもの行動特性を理解していただくことを目的としている。この日は同町およびその近隣に住む親子65名が参加した。3人の幼児と来場した母親は「小さい子どもにもわかりやすい内容良かった。家庭で教育する上で参考になります」と感想を語った。



トラックの内輪差による巻き込み事故の再現

主催した(株)飯野製作所田島工場総務課の阿久津正孝さん(ホンダパートナーシップインストラクター)は「事故の再現などを見ていただくことで、多くの親子に交通安全の大切さを伝えることができました。周辺地域での交通事故をなくしていくために、今後も継続していきたい」と話す。



●二輪車安全運転実技講習会 主催:本田技研工業(株)安全運転普及本部 後援:北海道警察、北海道空知総合振興局、夕張市 協力:夕張リゾート(株)、NPO法人ゆうばり観光協会、遠軽自動車学校、北広島自動車学校、野付牛自動車学校、北海道クミアイ自動車学校、芽室自動車学校、北海道ホンダ販売(株)

1 二輪販売店や地域と一体となって ライダーの安全意識を高める

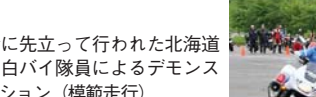
●ホンダおもしろツーリング&二輪車安全運転実技講習会 in夕張 石炭の歴史村

6月24日、「ホンダおもしろツーリング&二輪車安全運転実技講習会」が開催された。これは、ホンダの二輪、汎用品の北海道代理店である北海道ホンダ販売(株)と、本田技研工業(株)安全運転普及本部が、ライダーの運転技術と安全意識を向上させるために実施したものである。

当日の朝、二輪販売店のホンダドリーム札幌にはツーリングに参加する同店のお客様15名が集会。午前9時に、同店の石川治彦店長の先導で、札幌市から講習会の会場である夕張市にある「夕張石炭の歴史村」に向けて出発した。



講習会では遠軽自動車学校、北広島自動車学校、野付牛自動車学校、北海道クミアイ自動車学校、芽室自動車学校の教習指導員が参加者の運転に合わせてアドバイス



講習会に先立って行われた北海道警察の白バイ隊員によるデモンストラクション(模範走行)

講習会は午後1時30分からスタートし、参加者はブレーキングやパイロンスラロームなどの課題に取り組み。同講習会に協力している北海道内の自動車教習所5校の教習指導員8名がインストラクターとして実技指導を行った。今年からは新たに、目の錯覚による事故の危険性について、同じ距離からの二輪車と四輪車の見え方(距離感)の違いをケーススタディとして、参加者は体感して学んだ。参加者からは「自分では気づかない悪いクセがわかって良かった。アドバイスを受けたことを実践していきたい」という声が聞かれた。指導を担当した野付牛自動車学校の



Honda ドリーム札幌がある札幌市から夕張市へ向かうライダー

3 互いの指導方法を発表し合い、意見を交換

●九州・山口地区交通安全指導者情報交換会



開会式では主催者を代表して(株)飯野製作所田島工場次長の馬場久永さんが挨拶



情報交換会には福岡県、熊本県、宮崎県、長崎県、大分県、佐賀県、山口県から64名の交通安全指導者の方々が参加

本田技研工業(株)安全運転普及本部栃木普及ブロックのインストラクターは「あやとりひよこ編」を使って基本的な交通ルールを説明

8月2、3日、熊本県熊本市にて「九州・山口地区交通安全指導者情報交換会」が開催された。これは、本田技研工業(株)安全運転普及本部栃木普及ブロックが主催したもので、九州および山口県で活躍している交通安全指導者の方々に、相互の指導方法の確認や意見交換を通じて、さらなる指導レベル向上に協力することがねらわれている。